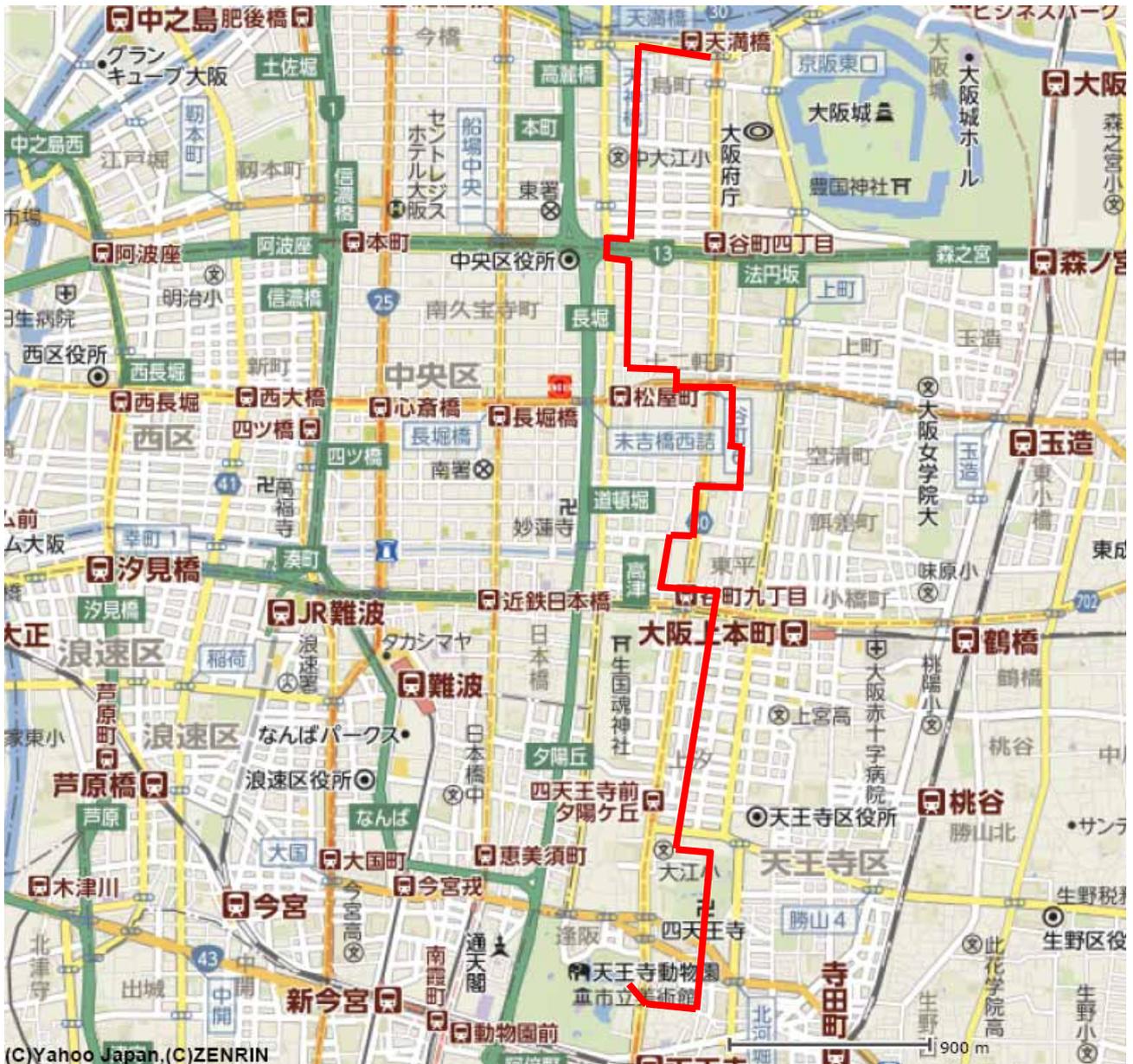


熊野街道ウォーキング報告書(その1)

日時：2012年12月16日(日) 10:00~15:00

コース：天満橋~天王寺

参加者：吉原、吉田、本多、森江、南側(留)、南側(晃)、平山 (7名)



八軒家船着場跡

シティモール1階、京阪電車改札前で10時に全員が集めた。天満橋交差点を南に渡り土佐堀通り沿いに西に50m程度行ったところに「永田屋昆布本店」がある。この店の前に「八軒家船着場跡」の記念碑がある。

この地は江戸時代には八軒家と称し淀川を上り下りの三十石船の発着場として、さらに古くは渡辺といひ紀州熊野詣での旅人の上陸地として栄えた。また大江山の鬼を退治したといわれる渡辺綱はこの地を支配した摂津源氏一族の出身であり、『地獄門』で知られる遠藤盛遠が袈裟御前を見初めたのもここに架けられた渡辺橋の渡りぞめの時のことと伝える。楠正行がこの橋からなだれ落ちる敵兵を救いあげ衣料を与えて国へ帰してやったという美談は明治初年わが国が万国赤十字に加盟のとき伝えられて感銘を与えた。(HPより)



摂津名所図会

熊野街道の説明板

「八軒家船着場跡」から土佐堀通り沿いにさらに西に30mほど歩くと、平成2年に大阪市が設置した熊野街道に関する説明看板がある。



坐間神社

土佐堀通り沿いにさらに西に歩いて「エルおおさか労働センター」の角を南へ10m歩くと「坐間神社」がある。ここは、熊野街道九十九王子のうち最初の王子となる「窪津王子」である。

天正11年(1583年)豊臣秀吉の大坂城築城に当たり「坐間神社」は船場の現在地に遷座した。現在の鎮座地の地名は「久太郎町四丁目渡辺」となっている。正式な読み方は「いかすりじんじゃ」だが、一般には「ざまじんじゃ」と呼ばれることの方が多い。





武家屋敷跡

「エルおおさか」の東面に「武家屋敷跡」がある。





阪口王子

「エルおおさか」の東角を南へ1 kmほど歩くと「南大江公園」ある。この公園の南西角に第2の王子となる阪口王子の記念碑がある。



榎木神社

「南大江公園」から南に300mほど歩くと「榎木神社」ある。ご神樹は榎木ではなく中国から伝わった槐木（えんじゅ）とあると、祠においてあったしおりには書いている。一時は枯れ死寸前であったが、樹医山野忠彦氏により持ちこたえ元気に育っている。ご神体は白蛇という。都市計画などで何度も伐採しようとしたが、常に伐採したものに事故が発生したので、伐採をあきらめたそうである。大阪大空襲の時にはこの辺の類焼は免れたという。不思議な力のある明神様である。往時には、この大木は目印になった。植樹したのは楠木正成公であると伝えられている。大明神の脇には、この近くで生まれた、あの直木賞の直木三十五氏を記念して、文学碑が建っている。



熊野街道の案内

長堀通りを東へ歩き、谷町6丁目交差点をさらに東へ50m行くと、コンビニの角に熊野街道の案内がある。平成13年に大阪市が設置したものである。



路面に設置された説明板

コンビニから南へ250m歩くと路面に熊野街道の説明板が設置されていた。



楠大明神

さらに南へ200mほど歩くと「楠大明神」がある。大阪府中央区にある史跡。地元では、「谷町のクスノキさん」、「楠玉社(くすたましゃ)」などと呼ばれている。谷町七丁目交差点すぐであり、道路の真ん中に木立が茂っている特徴を持つ。枯れた切り株に注蓮縄(しめなわ)を張り、神木として祀っている。かつて、神木は、この場所にあった本照寺の境内に植えられていたもの。本照寺は、「クスノキ寺」と呼ばれ、地元の人に親しまれていた。1937年、道路拡張工事のため、本照寺は移転した。楠は、繁栄をもたらす蛇が

棲んでいるとされ、「伐るとたたりが起こる」と信じられていた。愛称は、巳（みい）さんと呼ばれ、親しまれていた楠は当時のまま今に残る。現在、両脇を挟むように走る道路は「楠木筋」と呼ばれている



近松門左衛門の墓

近松門左衛門は1653年（承応2年）の生まれで（出生地については諸説あり）、本名は杉森信盛、幼名は次郎吉といい、越前・吉江藩士杉森市左衛門信義の次男として誕生する。元禄年間を中心として、貞享～享保と約40年間にわたり劇作家として活躍し、1724年（享保9年）に72歳で没した。近松は、竹本義太夫や2代目義太夫のために100作を超える浄瑠璃を著す一方で、坂田藤十郎のために20数作の歌舞伎狂言を著している。「曽根崎心中」、「心中天網島」、「女殺油地獄」などの世話物に代表される作品に描かれる人間の姿は今日に通ずる所も多く、伝統芸能や演劇、映画などの中で再創造され、たくさんの人に感動を与え続けている。



高津神社にある郡戸王子

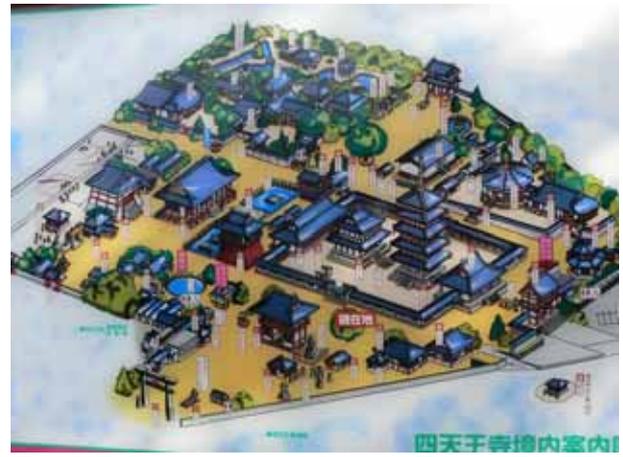
楠大明神から西に200m、南に300m歩くと、高津神社が。社伝によれば、天正11年(1581年)現地に鎮座していた比売古曾神社の敷地に東高津宮から遷座、比売古曾神の赤留比賣命を地主神とした。清和天皇は貞観8年(866年)旧都の遺蹟を尋ねさせ、社地を選定して社殿を創建したという。崇徳天皇の天治元年(1124年)に社地を石山より東高津に遷した。仁徳天皇が都したのは現在大阪城のある石山であったとされるが、遺跡は見いだせていない。当地も古来より丘陵地であり、南は住吉大社付近まで続いている。





四天王寺

四天王寺（してんのうじ）は、大阪市天王寺区にある寺院。聖徳太子建立七大寺の一つとされている。山号は荒陵山（あらはかさん）、本尊は救世観音菩薩（くせかんのんぼさつ）である。「金光明四天王大護国寺」（こんこうみょうしてんのうだいごこくのてら）ともいう。『日本書紀』によれば推古天皇元年（593年）に造立が開始されたという。当寺周辺の区名、駅名などに使われている「天王寺」は四天王寺の略称。聖徳太子の慈悲心を受け継ぐ名僧らが拠り所としていたこともあり、また元から特に宗派にはこだわらない別格とされていた。第二次世界大戦頃までは長く天台宗に属していた時期もあったが、日本仏教の祖とされる「聖徳太子建立の寺」であり、「日本仏教の最初の寺」として、既存の仏教の諸宗派にはこだわらない全仏教的な立場から、1946年に和宗総本山として独立している。





堀越神社にある熊野第一王子

四天王寺から、天王寺駅方面に歩いて5分程で堀越神社につく。境内には「窪津王子祠」が祀られている。ここ堀越神社は、第33代推古天皇の時代に聖徳太子が、太子の叔父さんの、第32代崇峻天皇の徳を偲んで、ここ茶臼山に、四天王寺建立と同時に創建したところという。古くは、境内の南沿いに美しい堀があり、この堀を越えて参詣したので、堀越という名が付けられたといわれている。大阪でも非常に景色のいいところだったので、今はその面影もない。またここは、「一生に一度の願いを聞いてくださる神さん」との言い伝えがあることを境内の掲示板で知った。また、男の四十二才の厄年には、東向きの神社にお参りすると厄除けになると言われており、毎年多くの方がお参りするという。熊野神社「三熊野大神」を合祀している。

